



島根の地域医療

今回の紙面



- ◆年頭ごあいさつ《木村清志》 ◆地域医療最前線 NO. 32 《永松 力 先生》
- ◆看護師さんのページ NO. 12 《勝部友子さん》 ◆研修医のページ NO. 17 《清水幸恵 先生》
- ◆臨床研修指導医講習会 ◆若手医師ステップアップ研修会 ◆第1回地域医療支援会議



年頭ごあいさつ

島根県健康福祉部医療対策課

医師確保対策室長 木村 清志



皆様、
あけまし
ておめで
とうござ
います。

旧年中



は、医療対策課、医師確保対策室に多大なるご協力、ご支援をいただきましてありがとうございます。本年も変わらずよろしくお願いいたします。

さて、振り返りますと当室が設置され本年で3年が経過いたしました。「現役医師の確保」、「将来の医師の養成」を2つの大きな柱として事業を実施し、昨年もおかげさまで一定の成果を上げることができたと考えております。島根県に縁のある方を中心とした「現役医師の確保」につきましましては、今年度は4名の方が既に県内で勤務を開始され、来年度早々に着任予定の4名を加えますと現時点で今年度の実績は8名となります。平成18年度の8名、19年度の11名と併せて、3年間で計27名の招聘ができました。ちなみに、そのうち4名は残念ながら既に県外に

転出されております。現時点のデータはあくまでも中途のものではありませんが、この事業により実質的には1年間に8名程度の医師招聘ができたということになります。また、「将来の医師の養成」ということでは、県内勤務を返還免除条件とした医学生に対する奨学金貸与を中心に取り組んでおります。平成14年度に開始し、17年度までの貸与者はごくわずかでしたが、18年度から定員を増やし、今年度は2つのタイプの奨学金で、計24名（うち1年生14名）がフルマツチいたしました。通算して65名の方に貸与しており、このなかで、4名が医師となり、2名が県内の離島・中山間地域の病院に勤務、2名が島根大学附属病院で初期研修中です。今後、島根大学医学部の「緊急医師確保対策枠」の医学生に対応した奨学金も計画しており、それを併せれば平成21年度からは毎年30名近くの新たな奨学金貸与学生が誕生いたします。

一方で、県内の勤務医師実態調査によれば、病院の勤務医師は年々減少し、医師不足はさらに深刻化しております。具体的には、県内の病院で平成18年から19年にかけて7名、19年から20年にかけて12名の常勤医師が減少しました。



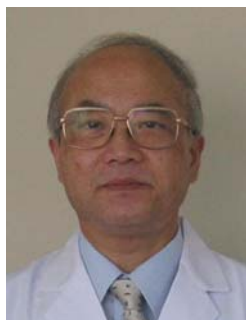
た。一体いつになれば県内の病院に勤務する医師の減少が留まり、そして増加していくのかという質問に対してのお答えは決して容易ではありません。「現役医師の確保」の成果は確実に計算できるものではありませんが、奨学金の貸与を受けた方のなかから、今後は毎年初期臨床研修を終える方が出ます。その数は年々増加し、平成26年からは毎年10名以上の方が3年目の医師となります。従いましてすぐにはまいりませんが、そう遠くない時期にまず県内の公的病院等の医師数の減少に歯止めがかかるものと考えております。単に地域医療に携わる医師の絶対数だけではなく、不足する診療科に対する施策なども今後の課題であり、決して楽観できる状況にはありませんが、いつか安定的に地域医療の確保ができる日が来ると信じております。

最後になりましたが、それぞれの地域、また地域医療機関の皆様方におかれましては、昨今の厳しい状況のなかで地域医療を確保するために最大限のご努力を払われておりますことに深く敬意を表します。県といたしましては、大学と一層の連携を図り、また市町村や地域医療機関との協力体制を強化し、全力で医療確保、医師確保に取り組みで参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

「人を大切に」

「良い医療・心のこもったケア・安心を提供する病院を目指して」

安来市立病院 院長 永松 力



戦後の混乱から世の中が少しずつ安定していく中、地域の篤志家

を中心に多くの心ある方々により、昭和28年に広瀬町外4カ村組合立病院設立国保診療施設が計画されました。

当時は現在のように医療保険制度も無く、感染症特に肺結核を中心とした感染症や高血圧による脳出血等で病む多くの人々が、殆んど医療らしい医療を受けることも無く、亡くなっていったという時代であったかと思えます。

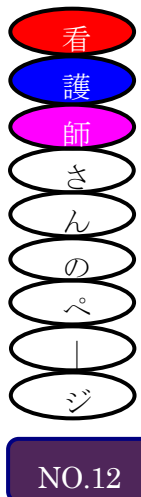
この様な背景の下に、昭和30年5月に病床数58床の広瀬病院が誕生し、内科・外科・産婦人科の3診療科でもって、診療が開始されました。病院はその後幾多の変遷を経て、平成16年10月平成の大合併で旧安来市・広瀬町・伯太町の1市2町が合併し新生安来市となり、病院は名称を変更し安来

市立病院と改称されました。

市立病院の病床数は217床(内療養病床48床)。診療科目は内科(総合内科、消化器、循環器、内分泌代謝)、外科、産婦人科、小児科、整形外科、放射線科、神経内科、泌尿器科、麻酔科、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科の12科、その後更にリハビリテーション科を追加設置し計13科の診療体制となりました。平成19年には将来の人口その他を見据え、病床数を199床に削減しております。安来圏域には当院を含め4病院ありますが、当院は4病院の中では一般病床が最も多く、安来圏域の中核病院として救急告示の指定を受けております。圏域の救急搬送患者の約6割を受け入れ、急性期病院として主に2次医療を担う、急性期医療と療養病床を併設したケアミックス型の医療を行っております。当地域は高齢化少子化が急速に進み数年後には高齢化率が30%を越えます。当院は急性期医療を担う公立病院として、地域住民の安心の砦としての使命を果す事が求められております。また、この度島根県医療計画で決定されました4疾患5事業について、安来圏域の中核病院としてその役割を担い、当院と当地域の各種医療・福祉施設とが、それぞれ可能な役割を分担し地域連携・地域完結型の医療を展開して行く事も求

められております。今後急速に進む高齢化少子化や経済力の衰えにより、近い将来到来すると思われる格差社会の事を考えると、約50年前志ある方々に灯された貴い思いの灯を消してはならないと思っております。なんとか地域住民の方々の多様なニーズを、市立病院モニター会議等の諸会議で検討しながら、市民に育てられる病院・やる気のある人が働きやすい病院・安全で質の良い安心して受けられる医療が提供できる病院を目指し、全職員一同頑張っております。

地域医療に情熱のある方一緒に働いてみませんか。



公立雲南総合病院

訪問看護ステーションうんな

看護師 勝部 友子

「こんにちはー。いかがですか？庭の山茶花が満開になりましたね。今日は雪が降りましたよ。」

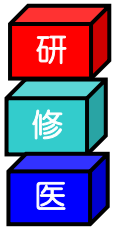
私は「訪問看護ステーションうんな」に勤務する、訪問看護師です。毎日訪

問する道中や、家の周りの事などを話題に取り上げながら、ご自宅へ訪問しています。

私たちのステーションは、看護師13人、理学療法士1人、作業療法士1人、事務職員1人がいます。利用者数は、約68人で、雲南市全域をエリアとしています。高齢化率を言えば全国平均は21.5%、島根県は28.2%で全国1位ですが、その中でも雲南市は32.9%と更に高いです。訪問先を見ても利用者の70%が75歳以上です。また介護者も70%が60歳以上で、70歳台が最も多い状況です。介護度も高く、老々介護で介護量が多い中必死で生活している状況がうかがえます。また、在院日数の短縮に伴い医療依存度の高い状態での在宅療養が多くなってきたため、高齢者が胃瘻や吸引、気管切開やストーマ増設などを受けた家族の介護をしなければならぬ状況があります。このような地域の状況の中で訪問看護の役割は大きいものがあります。雲南市にはステーションは1箇所しかありません。訪問看護の充実を迫られる中、少しでも多くの方の要望に応えられるようにと毎日走り回っています。

最初、私は訪問看護師として少しでも在宅療養の助けになればと気負っていたところがありました。しかし訪問

先で利用者やその家族とふれあい、まるで家族と同様に何十年もの付き合いがあったかのように、その方の生き様を見せてくださいます。自慢の手料理でもてなされ、伴に人生を振り返る時間を過ごすごうができます。「あなたと話して慰められました」と言ってくださる家族の前に、反対に私の方が慰められている事に気付きます。訪問看護師は1人で訪問し自分の五感と知識を駆使し、判断し、ケアしていかねればなりません。これでいいのか？と常に迷いながらの訪問は時に怖さを感じることがありますが、利用者の言葉と、雲南の自然が私を励ましてくれていきます。



のページ

NO.17

松江市立病院

2年目研修医 清水 幸恵

松江市立病院で初期研修がスタートして早いもので2年目が経とうとして



います。
現在、私は指導医の先生方や看護師さんその他多くの

スタッフにお世話になって楽しく充実した毎日を過ごしています。

私は山陰で生まれ育ち、大学も研修も地元を選びました。医師の偏在が深刻化し、都会に行く同期も多いこの地で研修を行うことにした理由はこの山陰の自然や人が好きだからということと、学ぶべきことが多い研修医時代にある程度の生活のゆとりをもって過ごしたかったからです。とは言うものの、1年目の春は何もかもが初めてで学生の時とは全く違う責任の重さや社会の仕組みに戸惑い悪戦苦闘の毎日でした。また、病棟が変わる度に1週間のスケジュールが変わり、職場によりやく慣れてきてこれからは意識込んでいるときにはその科の研修期間が終わってしまう。そんなシビアな環境の中、私の励みになったのは患者さんからの「先生が来てくれるのを待ってたわ。ありがとう。」等の言葉や指導医や同僚・スタッフとの何気ない会話でした。

今秋には診療所や在宅医療も研修させていただき、往診にも連れて行って

いただきました。診療所の先生や在宅医療のスタッフから患者さん全体をみようとする姿勢を感じました。病院で出会う患者さんの背景にはみんな別々の環境があり、患者さんの病気だけでなく生活面も含めて、その方のすべてを診るということの大切さを学びました。反対に人生の先輩である患者さんから多くのことを教えていただくことも数々ありました。

忙しく大変ではありますが、多くの人と触れ合っていけるこの医師という職業に私は充実感と素晴らしさを実感しています。患者さんとの距離が近い、地域に根差した病院で今後とも医師として人間として成長できるよう頑張っていきたいと思っています。

臨床研修指導医講習会開催報告

11月22日(土)～24日(月)

の3日間、島根大学医学部において、「平成20年度島根県臨床研修指導医講習会」を開催しました。本講習会は、厚生労働省の指導医講習会開催指針に基づき、平成17年度から実施しているもので、今回で5回目となります。

今回は島根大学に委託実施しました。当日は、各研修病院から46名の医師が、やる気をださせる臨床指導法、教育評価方法等、延べ20時間に及ぶ

講習会を受講しました。今回の講習会の成果として、県内の研修病院で有意義な研修をしていただけることを期待しています。

なお、プログラム責任者及び指導医の要件として「プライマリ・ケアの指導方法等に関する講習会を受講していること」と省令で規定され、平成21年4月1日より適用になることから、多くの医師にご応募いただきましたが、全ての方の受講がかな



わず大変申し訳ありませんでした。次年度も講習を会実施予定ですので、ご応募いただけますようお願いいたします。

▼ディレクター
名古屋大学医学部附属病院・伴信太郎先生

▼チーフタスクフォース

広島西医療センター・田中丈夫先生

▼タスクフォース

防衛医科大学校病院・角誠二郎先生、小林裕幸先生

島根大学医学部附属病院・水本一先生、島根県立中央病院・今田敏宏先生

大変お世話になりました。

【医療対策課 太田】

12月13日(土)に研修医・指導医双方がより良い臨床研修を行うことを目的に、「若手医師ステップアップ研修会」を、研修医等定着特別対策事業の一環として島根大学に委託し開催しました。

第1部は筑波大学附属病院総合臨床教育センター副部長の前野哲博先生に「研修医のストレス」と題して、研修医のストレス予防方法、病院におけるメンタルヘルスケアについて具体例を用いてご講演をいただきました。

第2部は島根大学医学部整形外科教室の協力により、実習「救急領域での整形外科的対応のABC」坐学から実践まで」と題し、はじめに救急における整形外科の基本的対応について講義いただいた後、6グループに分かれて手技の実習をしました。

第1部には65名、第2部には35名の指導医、研修医等にご参加いただきました。



【医療対策課 太田】

県では、昨年度に引き続き、島根大学医学部と合同で県内の全病院(57)と公立診療所(40)を対象に勤務医師実態調査(平成20年10月1日現在)を行いました。その結果、現行の診療体制で平成21年4月に必要な人員は1,173人(前年比29増)で、不足数は271人(前年比44増)、充足率は昨年度から若干低下し約77%でした。

診療科別で充足率が低いのは、順に、リハビリテーション科(57.7%)、救急(62.0%)、耳鼻咽喉科(63.0%)、益田圏域(69.8%)、浜田圏域(70.1%)、大田圏域(70.4%)の4圏域

で県平均を下回りました。なお、この調査結果は、「島根県地域医療支援会議」で報告し、今後の地域医療確保対策を検討する上での基礎資料とします。



第1回地域医療支援会議の様子

【医療対策課 仲佐】

医師の必要数と現員数

【圏域別】 単位：人

圏域	必要数 ①	現員数(常勤換算後) ②		不足数 ②-①		充足率 ②/①	
		内常勤医					
松江	421.5	347.2	317	74.3	82.4%		
雲南	82.9	53.8	38	29.1	64.9%		
出雲	251.6	203.1	189	48.5	80.7%		
大田	86.8	61.1	52	25.7	70.4%		
浜田	174.6	122.4	108	52.2	70.1%		
益田	125.0	87.3	72	37.7	69.8%		
隠岐	30.3	26.9	25	3.4	88.8%		
合計	1,172.7	901.8	801	270.9	76.9%		

【診療科別】 単位：人

診療科	必要数 ①	現員数(常勤換算後) ②		不足数 ②-①		充足率 ②/①	
		内常勤医					
内科群	420.9	322.2	285	98.7	76.6%		
精神科	89.3	79.9	69	9.4	89.5%		
小児科	57.9	44.0	39	13.9	76.0%		
外科群	150.7	122.2	113	28.5	81.1%		
整形外科	99.4	82.3	75	17.1	82.8%		
脳神経外科	32.7	25.4	24	7.3	77.7%		
皮膚科	18.9	12.9	9	6.0	68.3%		
泌尿器科	37.8	28.7	27	9.1	75.9%		
産婦人科	53.3	42.8	37	10.5	80.3%		
眼科	25.8	17.0	13	8.8	65.9%		
耳鼻咽喉科	21.6	13.6	11	8.0	63.0%		
リハビリテーション科	36.2	20.9	20	15.3	57.7%		
放射線科	37.7	25.4	23	12.3	67.4%		
麻酔科	43.7	30.5	26	13.2	69.8%		
救急	20.0	12.4	12	7.6	62.0%		
その他	26.8	21.6	18	5.2	80.6%		
合計	1,172.7	901.8	801	270.9	76.9%		

20年10月1日現在「勤務医師実態調査」より
島根大学医学部附属病院を除く
非常勤医師については、勤務時間により常勤換算

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人等に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供するとともに、県内での勤務を支援します。

医師募集・地域医療ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアーを実施しています。旅費は県が負担します。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせいただくと助かります。携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県医療対策課医師確保対策室
TEL 0852-22-6684 FAX 0852-22-6040
E-Mail iryoutai@pref.shimane.lg.jp
ホームページ：<http://www.pref.shimane.lg.jp/iryotaisaku/>

